

J - フォンがボーダフォンに

@jp-t.ne.jp が@t.vodafone.ne.jp に変わる意味

J - フォンがボーダフォンになり、携帯のアドレスも変更されることが発表されました。

これまでJ - フォンは、地域によって、jp-x.ne.jpというドメインでした。それらがx.vodafone.ne.jpになるといことです。

まず、2003年11月には、vodafone.ne.jpが利用できるようになり、来年12月まではjp-x.ne.jpでメールを受信できるけれど、再来年1月には、jp-x.ne.jpは完全に使えなくなるということです。

移行期間が1年あるので、スムーズに移行できるだろう、という考えでしょう。確かに1年という移行期間は十分長いと思います。

しかし、vodafone.ne.jpになるといこと、利用者にとってどういうメリットがあるのでしょうか。

jp-xは4文字です。vodafoneは8文字です。そして、文字数以上に、携帯で操作した場合はキータッチ数が問題です。文字数が長くてキータッチ数が少なければ、それほど負担にはなりません。「jp-t」と「t.vodafone」で比較してみます。

「j」と「p」は数字の「5」「7」に割り当てられており、1回のキータッチで入力できます。このように計算すると、「jp-t」は合計12回のキータッチです。

それに対して「t.vodafone.ne.jp」は、21回のキータッチです。

キータッチ数も12回対21回ということで、利用者はJ - フォンにメールを出すときには、約2倍のキータッチをしなければならなくなります。利用者にとっては、「t.vodafone.ne.jp」はキータッチ数が多くて面倒です。

一千万人を超えるJ - フォンの利用者すべてに、ドメイン変更をお願いするのですから、何かメリットがあるのかもしれませんが、報道発表だけでは、そのメリットが私にはわかりません。

このニュースを読んで、インターネットプロバイダーのドメインが「or.jp」から「ne.jp」になった時のことを思い出しました。

当初、インターネットプロバイダーは「or.jp」を取得するようにと、JPNICから言われ、当社も、そして他の会社もほとんどすべて「or.jp」でした。

ある日、JPNICから、「インターネットプロバイダーには ne.jp を用意したから、これまで or.jp を取得したプロバイダーも ne.jp にするように。ついては、移行期間を下記のように設ける。」という連絡がありました。

当時業界最大手のベッコアメインターネットは、「bekkoame.or.jp」から「bekkoame.ne.jp」に変更しました。私の記憶でベッコアメは当時20万人くらい顧客を抱えていたはずですが、20万人の利用者がドメインを変えたはずで、移行期間が終わっても、ベッコアメのトップページには、「ドメインがne.jpになったので、設定変更をしてください」という案内がずっと出ていました。非常に多くのお客様がメール設定変更をうまくできず、困られたのではないのでしょうか。中には、メールができなくなった、こんなプロバイダーはいやだ、とやめられた方もいらっしゃったと思います。

「利用者にとってメリットがない」どころか、「メールソフトの設定を変える」、場合によっては、「名刺の刷りなおしが発生する」など、デメリットが多くあることから、当社は「or.jp」のままにしました。そして今日に至っております。現在でも、ダイヤルアップクラシックのメールアドレスはinterlink.or.jpです。

「or.jp」は本来、会社以外の組織に与えられるものですから、インターネットプロバイダーが「or.jp」というのが、おかしかったのは事実です。しかし、「ne.jp」を作って、それにしろ、というのもっとおかしい。

本来、作るべきだったドメインを忘れていたのは、紛れもなく、JPNICです。JPNICのミステイクを、利用者にも負わせるような形にはいけません。米国には当初から3つのドメインがありました。「com」「org」「net」です。「com」は「co.jp」が対応し、「org」は「or.jp」が対応しています。「net」に対応するものだけがなかったのは不自然な気がします。

もうひとつ、面白い事実があります。それは、インターネットプロバイダー業に大手の会社が参入したのは、「ne.jp」ができた頃なのです。

それまで、インターネットプロバイダーは、日本にインターネットを普及させるという意気込みは社大だけれど、会社は小さいベンチャーばか

りでした。それがある時期を境に大手が参入してきたのです。今思い出すと、ちょうど、「ne.jp」が導入された頃だったように思います。これは偶然でしょうか、はたまた必然でしょうか。

結果的に、「or.jp」の会社は「ne.jp」にすることで顧客の信頼を損ね、そして当社のように「or.jp」のままを選択した会社は、なにやら時代遅れのイメージにされ、はじめから「ne.jp」の大手に市場は席捲されていったのでした。

インターネット業界は進歩が早く、導入した機器やサービスがどうしても時代にあわなくなることがあります。当社でも、撤退したサービスもありますし、前回のアクセスポイント変更ではお客様に全面的な変更をお願いしました。しかしながら、変更をお願いするのは、変更後に非常に大きなメリットがある、という時です。アクセスポイント全面変更の時には、アクセスポイント数が10倍になるというメリットがありました。

J - フォンは、無料通話の繰越しなど、お客様の立場にたった展開をしてきた会社です。私も個人の携帯はJ - フォンを利用しています。今回のドメイン変更が単なる会社都合ではないと思いますが、今の所、利用者のメリットがはっきりしていません。

ここからは宣伝ですが、インターリンクでは、『えらべるメール ケータイ対応』（i-mode版、J - フォン版、ezweb版）というサービスをはじめました。これは、ケータイにあたかも2個目のメールアドレスがつく、というサービスです。いろいろなドメインからえらべるので、『えらべるメール』なのですが、例えば、「foo@imo.cc」というようなアドレスを携帯のアドレスにすることができるのです。

これにより、J - フォンがボーダフォンになろうが、「foo@imo.cc」が携帯のアドレスだよ、と友人に教えておけばいいのです。auやドコモから、J - フォンに乗り換えたくてもメールアドレスが変わるのがいやだと言う方も多いと思いますが、「foo@imo.cc」を取得して、それをメールで使っておけば、携帯電話会社を変えることに躊躇しなくなるでしょう。